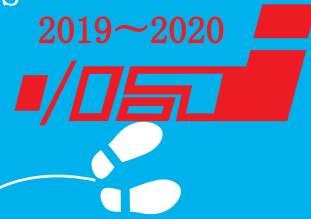




THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS
JAPAN EAST REGION
東日本区理事通信



2020.6.1 発行
第 12 号

勇氣ある変革、愛ある行動！

Innovation with courage, action with heart!

みんなで力を合わせて、1・2・3

Hop, Step and Jump with all Y'smen

強調月間
■ 評価

理事
メッセージ



東日本区理事 山田 敏明 (十勝)

東日本区の皆様、こんにちは。
いよいよ6月、今年度最後の月となりました。6月の強調は「評価」です。各クラブにおかれましては、多難な1年でしたが、今期を振り返り新年度に向けて準備を滞りなく進めていただきたく思います。

新型コロナウイルスの影響で、私たち誰もが体験したことのない環境の中にいます。

自粛生活が続くと、本来のワイズの地域奉仕活動が、例年通り上手いかわかりませんが、自分や周りの命を守る事を第一に考え、STAY HOMEを続けていきましょう。

先日5月13日より3日間、今回の電子決済の代議

員会の関係で、代議員会の構成メンバーである各部の部長及び部選出代議員の皆さんと、61クラブの会長に電話連絡をさせていただきました。皆さんは、本当に元気に過ごされており、事務連絡等で電話をさせて頂いたのにも関わらず、様々なワイズの話や、近況報告に発展し、自分としても勇気づけられた会話となりました。メールでは、なかなか伝わりにくい事柄が、電話ではお互い理解し合えることが出来、有意義な時間でした。

もうすぐ代議員の方へ、メール或いは書面で代議員会の議案を送付し、6月22～28日で、採決を取らせて頂きますので、対応をお願いします。

第23回東日本区大会は中止となりましたが、理事引き継ぎ式は東京か十勝で開催する予定です。詳細が決まり次第、御連絡をいたします。

あと1か月の任期ですが、最後まで「勇氣ある変革、愛ある行動」の理事主題のもと、頑張っていきます。



エッセンシャルワーカーを表彰

新型コロナウイルス感染拡大は未だ収まっていないところですが、この度、国際協会において、この混乱した社会状況の中、感染リスクの中にあっても地域社会システム維持のために尽力されておられるメンバー(医療従事者、警察・消防・運輸・通信等の公共事業従事者、スーパーマーケット・コンビニエンスストア・ドラッグストア、ガソリンスタンド従業員等)を覚え、表彰(表彰状と記念品贈呈)することとなりました。

各クラブ会長は、クラブに該当するメンバーがいれば、以下の国際協会ウェブサイトから登録してください。
<https://www.ysmen.org/covid-19/covid-19-frontline-essential-workers/>

ウェブサイトの手続きは、クラブ会長または書記(幹事)となっていますが、両者とも困難な場合は、東日本区書記か区事務所までご連絡下さい。

熱海クラブの手作りマスクが IPe-Letter に

熱海クラブでは、去る3月27日に熱海市役所を訪れ、会員やメネットが手作りしたマスク300枚を市に寄贈しました。市では市内の放課後児童クラブへ配付しました。このことが、地元新聞にも掲載されましたが、国際会長の発行するニューズレター5月号でも紹介されました。



新型コロナ・ウイルス感染拡大に伴うYMCAの現状報告

全国のワイズメンズクラブの皆様には、困難の中でお過ごしのことと拝察いたします。皆様の心身の健康を心よりお祈りしております。世界と全国のYMCAでは、困難の中にあっても課題に向き合い、「はなれていても繋がっている」私たちの強みを、これからどう生かしていくのかを考え続けています。

これまで培ってきた、パートナーシップの先に希望の灯を掲げて進められれば幸いです。

1. 世界のYMCAの3分の2は、存続の危機、しかし、コミュニティの再生を優先

今、世界の多くのYMCAが会館を閉鎖し、スタッフを解雇させなければいけない現状があります。何万人というスタッフが解雇され、8割の収入が途絶えているところもあり、最も大きな影響を受けているのは北米、次にアフリカ、ラテンアメリカ、中東です。

YMCAの存続維持の課題はありますが、それよりもいま、YMCA関係者が心配しているのは、それぞれのコミュニティのことであり、動画等で発信しています。

2. 世界恐慌、二度の世界大戦、多くの危機を乗り越えてきたレジリエントYMCA

世界YMCA同盟は、「私たちは、レジリエント(resilient:どんな衝撃に耐えられる柔軟性を持つ、回復力がある、などの意味)YMCAです。このような時に、お互いに助け合い、支えあい、ミッションの炎を燃やしコミュニティのために働くことによって道が開かれます。」と呼びかけています。北米YMCAは、コミュニティと共に歩むYMCAを示しながら、大恐慌、二つの世界大戦、多くの災害と幾度も困難にあいながら、その時の地域社会の課題に伴走し、レジリエントYMCAとして歩んできたというメッセージが示されています。

これらのメッセージを受けて私たち日本のYMCAも、一番にYMCAの存続維持を掲げるのではなく、地域社会、コミュニティの崩壊を防ぐ働きのために存続するYMCAとしてポジティブネットの灯を高く掲げて歩みたいと震い立たされます。世界が共通の危機にある中、日本国内も緊急事態となり、YMCAでも閉館や事業休止となっています。その中でも全国のYMCAで医療や行政などで働く社会的なインフラを支える保育園や、学童、放課後デイ、高齢者事業など要支援者のサポートが、今も続けられています。全国の238の施設・拠点のうち181か所(76%)が今も活動を継続中です。保育自粛要請を受けながら定員16,000名に対して、その50%から30%の子どもたちに今も保育を継続し地域社会に灯を高く掲げています。

世界YMCA同盟からユースに関する緊急声明

<https://www.ymca.int/ymca-calls-for-urgent-safety-net-policies-for-young-people-worldwide/>

3. コロナの影響を受けて日本のYMCAの半数が2019年度マイナス決算

4月中旬に、日本YMCA同盟より、「日本YMCAのコロナ影響、緊急ヒアリング」をしました。この3月の決算期に、多少の地域差はありますが、全国の学校教育機関の休校要請となり、一部のYMCAを除き、通常の語学、ウェルネス(健康教育、水泳、体操、サッカー等)、専門学校等のYMCAの大型の会館の運営が休止となりました。さらに春休みに行く春期講習及びスキーキャンプなどの宿泊を伴う事業は、すべてのYMCAで実施できませんでした。それにより収入予算の約1.2%近い収入3億4千万円の減収となりました。その結果、2019年度の決算予想での収支差は、全体でマイナス1%となります。集計できた全国の26YMCA43法人の内、半分を超える23法人が赤字決算となりました。収入比マイナス4%からマイナス16%を超えたYMCAが11YMCA11法人ありました(新施設開設などのコロナの影響ではない2YMCAを除く)。

4. 全国に広がる緊急事態宣言の継続で、2ヶ月から3ヶ月の休館に大きな影響

4月にはこの休校解除に向けて準備を進めてきましたが、首都圏の緊急事態宣言が出て、直後に全国に拡大され、3月の減収を大幅に超える、4月の収入だけで、収入比で2%に近い6億円の減少となり、その時点での2020年度の決算見込みは、約14億7千万円の減収、収入比マイナス5%となりました。さらに5月も緊急事態継続となり、4月の減収と同等の減収が見込まれると大幅な悪化となり、また、夏のキャンプ等中止。専門学校日本語学科など後期入学のめどが立たなくなると予算収入の10%から20%近くの30億円から60億円の減収となる恐れも出てきます。月当たりの減収は、約25%減収ですので、この状態がさらに30%程度まで悪化する可能性もあります。

4月時点のヒアリングでは、政策金融公庫、市中銀行、振興資金などコロナ対策での無利子や、低金利等の借り入れを検討しているYMCAが18YMCA約16億円となっており、今後の状況では倍増する可能性があります。ウエルネス、専門学校日本語等(留学生が半分)で、そのダメージが大きいですが、加えて極めて困難なのは、ホテル・野外教育研修センターです。在日韓国YMCAホテルは、稼働率が1割弱、同盟のYMCA東山荘はすでに年間の4割程度のキャンセルとなっています。全国のYMCAキャンプ場、宿泊施設同様に、休業補償を受けるべく、雇用調整基金等の手続き、あらゆる支出削減策を進めています。

5. コロナ危機でも、事業収入の40%近くを支えるチャイルドケア、高齢者・福祉、公益協働事業

コロナ危機にありながら、保育園・こども園、学童保育、発達障がい児の放課後デイ、高齢者事業などが継続されています。医療関係者、行政、企業など社会のインフラを支える保護者のお子さんの保育、要支援者等を支える活動が継続され、その収入が全YMCAの収入の3分の1(約100億円)を超えています。地域コミュニティに、密着した活動の継続は、厳しい中にも地域社会にポジティブネットの灯を高く掲げています。これらの事業にさらにYMCAの全人教育を通しての伴走プログラムなど付加価値をさらに強めていくことが重要となっています。また、指定管理事業などで、児童館、コミュニティセンター、公立野外教育施設・体育館、学校の運営を担う行政との公益協働の事業の収入なども下支えています。自主事業などの減額の恐れもあるので油断できませんが、これらの事業比率が高いYMCAが、比較的安定しているのが現時点の状況です。これらの事業比率を高めるYMCAは、地域への働きを広め、安定運営につながるといえます。

6. 「はなれていても つながっている」

さらなる新たなつながりの構築を目指して、全国のYMCAで多様な取り組みが広がっています。幼稚園等では、家庭にこもっている親子のために公園に出向いて、お子さんを一時預かりし、家で退屈しないように教材を作成して渡し、連絡アプリで、子育てをサポートするニュースを配信したり、元気になる作文募集コンテストをワイズメンズクラブと共催したり、Zoomで双方向の野外例会を行ったりするYMCAもありました。また子ども向けのオンラインコンサートを全国のYMCAチャイルドケア事業に配信し、「はなれていても つながっている」取り組みが全国で行われています。大阪YMCAのサッカークラブのメンバーは医療従事者への感謝の思いをサッカーボールでリレーする動画を作成しSNSで発進したところ、テレビニュースで取り上げられました。またイタリア大使館もプロのテノール歌手も賛同し、大使館で心に響く歌声とメッセージを寄せてくださっています。

会員や地域の方々と双方向のつながりを作るべく、ウェブでのラジオ体操なども始まり、東京、大阪のインターナショナルスクールは、オンライン事業を継続し、海外から帰国できない学生もオンラインによってつながっています。休館が続く中、さらなる双方向や、オンラインでの事業再開などの取り組みが全国の事業協同などで始まっています。オンライン化のプラットフォームやコンテンツの共同開発も今後の課題として考えていきたいと思っています。さらに、子どもや会員家族の孤立を防ぐよう、手紙やはがき、往復はがきなどを使ってリーダーの直筆でのメッセージの交換など心が通いつながりを深めるとことを全国で展開しようとしています。

留学生などは、国を離れ、バイトも学ぶ機会もなく、孤立視状況もあり、北九州YMCAのレイパーソンにより、食料配布を提案し、それを聞いた広島でもお米配布、その取り組みを日本YMCA同盟が見つないでコストコから全国2,000名にお米10トンが配布されることになりました。目の前にいる留学生、ユースリーダー会員に寄り添い、伴走することが、様々取り組みに広がっています。これから、一時的に海外からの日本渡航は止まっても、再び外国からの流れは続く可能性が高いです。内なる国際化の視点で留学生や外国につながる方々の支援を、今こそ知恵を絞り、新しいつながりを構築していきましょう。

私たちの関係性を今後とも継続し、蓄積していくことは、地域社会の「伴走プログラム」として、今まで以上に社会に必要なものとなっていくのではないのでしょうか。私たち自身の健康が守られることを第一にしつつ、未来に目を向けた、希望の灯を見続けていくことが、次第に私たち自身の元気を取り戻す糧ともなることを心の糧としています。全国のワイズメンズクラブの皆様とご家族、周辺社会の皆様とともに、「そっと寄り添いながら伴走する社会」これこそが、私たちが考えている、ポジティブネットのある豊かな社会かもしれません。

歓迎！-5月の入会者 (敬称略)

★佐竹 博 (横浜)

ワイズカレンダー

6月5日(金) 東日本区第4回役員会(オンライン審議)

6月28日(日) 年次代議員会(オンライン審議)

上記報告は理事通信13号(最終号)に掲載します。